

氏名	柴田 由里子	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	母性看護学 助産学				
学位	修士（保健学）				
学歴	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科 卒業 2021年 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 修士課程 修了				
経歴	2021年 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 助教				
所属学会（役職）	日本公衆衛生学会、日本小児保健協会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	周産期のケア		1	【母乳育児支援】助産系学生22名対象。母性看護学の復習を兼ねて妊娠期から産褥期の乳房の変化や乳汁分泌機序、母乳育児に必要な知識習得のための講義を実施。エモーショナルサポートにおいては、学生間で意見交換の場を設けて思考を深める工夫をした。		
2	遺伝と看護		8	4年次生を対象に本科目への目的意識・意欲を高め、主体的な参加を促す為にファシリテートを行い、看護師に必要な倫理的感受性・態度が意識できるよう支援した。また、障がいを持つ子どもを育てる当事者をゲストとして招聘し、体験談の語りや当事者作成のアルバムを通して学生の考えを育み、効果的な学びにつながるようかかわった。加えて、円滑な科目運営が行えるようグループ担当FT教員とも調整を図った。		
(2) 演習						
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	母性看護学Ⅱ（方法論）		9	2次生対象に小グループを作成し【進行性変化と児の抱き方】【新生児の全身観察】の技術演習を担当。新生児人形や乳房モデルを用い、進行性変化の観察とアセスメント、授乳支援について解説と実演、ロールプレイを実施し基本的看護技術修得の指導と支援をした。また、新生児の全身観察や計測方法を動画視聴しながら留意点を説明し演習を行った。		
2	分娩期のケア		35	4年次助産系学生を対象に【内診技術】【新生児蘇生法】【産痛緩和】【分娩介助技術】【助産過程】を担当。演習前に電子教材を用いた事前課題を課すなど、対面と遠隔学習を組み合わせた学習を工夫した。分娩介助実習の前に知識や技術が定着するよう、時間割のコマ以外にも学生の介助技術練習への個別の指導も実施した。		

3	周産期のケア		21	3年次助産系学生を対象に①【妊婦健診と助産師外来】②【集団健康教育】③【母乳育児支援】を担当。①事前課題と事例を用いて、対象者に必要な観察項目・技術、指導を実施。FBにより新しい視点に気づくよう工夫した。②模擬集団教育に向けて教育指導案や教育媒体作成を指導し、発表会を通して互いの成果物に関する情報共有、評価を行い実践的な学びにつなげた。③講義での学びや事前課題から、自ら支援する際にどのような方法や配慮をするのかイメージを深め、事例を通じた演習を行うことで、実習に向けてより具体的な関わりを考察する機会とした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2022.5.9- 2022.7.1 (7週間)	3年生対象に産科病棟を7週間臨地実習と学内実習を担当。臨地、学内ともに学生のレディネスを踏まえて丁寧に関わり、実習の質を同等に保って工夫したため、学生は実習目標を達成できていた。
2	総合実習		2022.7.11-7.29 (3週間)	助産系4年4名対象に1施設3週間実習担当。習得知識・技術を活かせるよう調整した。学生の個性に留意して意欲が引き出す関わりにより看護の楽しさややりがい、助産学実習への意欲が強まった。
3	助産学実習Ⅱ		2022.8.22-9-30 (6週間)	助産系4年生4名対象に1施設6週間実習担当。看護意欲と心を込めた介助につながるよう丁寧に関わった。産婦が満足感得られるお産になるよう、関わり方や看護モデルになるよう努めることも工夫した。また、学内代替実習のために模擬産婦養成講座を実施し、養成された模擬産婦による実際の分娩介助を想定した学内実習を行ったことで、学生に効果的な実習を提供した。
4	IPW実習		2022.10.3-10.7 (オリ2コマ) (実習4日間)	教員ファシリテータを担当し、施設ファシリテータとの調整を行った。事例対象者へのアプローチについて、各学生の専門性を活かした役割とチームの協働を図り、多職種連携の学びに繋がるよう支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		主指導	副指導 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	高校出張講座（県立坂戸聾学園）	本学地域産学連携センター	性に関する学習講演会「思春期の性の健康」	2022.11
2	高校出張講座（県立熊谷女子高等学校）	本学地域産学連携センター	看護学を志す高校生のための看護学入門	2023.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	該当なし			
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			

7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		